

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	愛知医療学院短期大学
設置者名	学校法人佑愛学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	夜・通信		27	64	139	10	
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻				48			
	専攻科リハビリテーション科学専攻	夜・通信		6		6	4	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.yuai.ac.jp/kyouinhyo2021.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	愛知医療学院短期大学
設置者名	学校法人佑愛学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.yuai.ac.jp/about/disclosure/pdf/yakuinntoumeibo2021.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	現職 歯科医師	2018.6.22 ～ 2022.6.21	財務
非常勤	現職 企業取締役	2018.6.22 ～ 2022.6.21	研究
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛知医療学院短期大学
設置者名	学校法人佑愛学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>学内で統一した基準に従って各科目担当教員が授業計画(シラバス)を作成できるようシラバス作成要領を全教員に配布・説明し、各教員が授業計画(シラバス)を作成している。</p> <p>科目担当教員が作成した授業計画(シラバス)は、本学のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに則した学習到達目標、授業計画、成績評価の方法・基準となっているかどうかについて、第三者(学長、法人本部長、学科長、専攻長)が内容を確認している。</p> <p>授業計画(シラバス)は、教務システムを利用してWeb上で学生が閲覧できるようにするとともに、社会に周知するため本学公式ホームページにて公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.yuai.ac.jp/syllabus2021PT.pdf https://www.yuai.ac.jp/syllabus2021OT.pdf https://www.yuai.ac.jp/syllabus2021senkoka.pdf
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修成果を厳格かつ適正に評価するため各科目の成績評価基準及び学習到達目標に基づいて、多面的に評価している。筆記試験のみだけでなく、授業過程での小テストや準備学習の実施状況(ポートフォリオ)、レポート、参加貢献度などの学修プロセスを基準として設け、複数の評価基準を用いている。</p> <p>成績評価はシラバスに明記した各科目の評価方法・基準(例:筆記試験70%、ポートフォリオ30%の場合は各70点、30点満点)に基づき数値化し、授業形態が講義科目は5段階(90点以上:S、80点以上90点未満:A、70点以上80点未満:B、60点以上70点未満:C、60点未満:D)、授業形態が演習科目・実習科目は合格・不合格で評価し、S～C及び合格と判定された場合に単位を認定している。実習科目、専門科目の中には、一定の条件を満たさないと履修できない科目を設定しており、当該科目のシラバスに明記している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>『GPA制度規程』において、下記の通りGPAについて定めている。</p> <p>[算出方法]</p> <p>functional GPAを採用している。GPAを算出するにあたり、まず、GP(Grade Point)を算出する。GPは科目試験を対象とする。次に、GPと履修した科目の単位数から下記に示す式にてGPAを算出する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> $GP = (\text{成績素点} - 55) / 10 \quad * \text{ただし GP が 0.50 未満は 0.00 とする}$ $GPA = \Sigma (\text{科目の GP} \times \text{科目の単位数}) / \Sigma (\text{履修登録単位数})$ <p>GPAは小数点第三位を四捨五入し、小数点第二位までを表記する。</p> </div> <p>[算出時期]</p> <p>1年次と2年次は前期と後期の試験期間終了後に算出する。3年次は、後期の試験期間終了後に算出する。</p> <p>[対象科目]</p> <p>GPAの算出対象科目は、理学療法学専攻、作業療法学専攻ともに専門基礎科目、専門科目のうち、授業形態が講義に分類される科目とする。</p> <p>上記内容に従って算出したGPAについてIR情報課で成績分布等の分析を行い、教授会、教職員連絡会議で報告するなど、教職員全体で共有している。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.yuai.ac.jp/shiken2018.pdf
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定に関する方針として専攻ごとに下記のディプロマポリシーを定めている。

【理学療法学専攻】

医療人として専門知識は無論のこと、豊かなコミュニケーション能力をもとに多職種とのチーム医療構築に協働し、地域へ貢献できることが社会から期待されている。理学療法学専攻では、教育理念に基づき所定の単位を修得し、次の能力を身につけた学生に短期大学士（理学療法学専攻）を授与する。

1. 理学療法士として必要な専門知識と技術を修得している。
2. 理学療法の臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有している。
3. 常識人としての素養を兼ね備えている。
4. 身体に障がいを持つ人に、常に慈しみの心をもって接することができる。
5. 理学療法士としての責任感を持ち、身体に障がいを持った人の自立生活を支援するために必要な問題解決能力、臨床的思考力、実践力等の能力を有している。
6. 理学療法士として地域社会に貢献できる能力を有している。

【作業療法学専攻】

医療人として専門知識は無論のこと、豊かなコミュニケーション能力をもとに多職種とのチーム医療構築に協働し、地域へ貢献できることが社会から期待されている。作業療法学専攻では、教育理念に基づき所定の単位を修得し、次の能力を身につけた学生に短期大学士（作業療法学専攻）を授与する。

1. 作業療法士として必要な専門知識と技術を修得している。
2. 作業療法の臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有している。
3. 常識人としての素養を兼ね備えている。
4. 身体または精神に障がいを持つ人に、常に慈しみの心をもって接することができる。
5. 作業療法士としての責任感を持ち、身体または精神に障がいを持った人の自立生活を支援するために必要な問題解決能力、臨床的思考力、実践力等の能力を有している。
6. 作業療法士として地域社会に貢献できる能力を有している。

『GPA制度規程』に基づき、GPAを進級要件や卒業要件として活用している。進級要件として、2年次末において、1、2年次に開講された科目のうち卒業要件として定められている科目の必要単位を修得していても、その時点でのGPAが1.50未満の者に対しては進級試験を課し、合格した者について3年次への進級を認めている。さらに、卒業要件として、3年次末において卒業要件である理学療法学専攻106単位以上、作業療法学専攻105単位以上を修得することのほか、GPAが2.00未満の者に対しては卒業試験を課し、合格した者に卒業を認定している。

卒業認定に際しては、上記内容に基づき判定した卒業予定者の成績結果を教授会で確認し、承認している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.yuai.ac.jp/about/disclosure/education06.html>
愛知医療学院短期大学後援会会報誌

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	愛知医療学院短期大学
設置者名	学校法人佑愛学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.yuai.ac.jp/about/disclosure/pdf/sikin_syouhi_02.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.yuai.ac.jp/about/disclosure/pdf/sikin_syouhi_02.pdf
財産目録	https://www.yuai.ac.jp/about/disclosure/pdf/property_02hp.pdf
事業報告書	https://www.yuai.ac.jp/about/disclosure/pdf/account_report_02hp.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.yuai.ac.jp/about/disclosure/pdf/kanji_account_report_02.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:	https://www.yuai.ac.jp/self_inspection_R2.pdf
-------	---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:	https://www.yuai.ac.jp/about/pdf/accreditation2018.pdf
-------	---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	リハビリテーション学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.yuai.ac.jp/about/disclosure/education01.html ）	<p>（概要）</p> <p>【リハビリテーション学科設置の目的】</p> <p>理学療法・作業療法それぞれの専門知識と技能の修得とともに、豊かな人間性を持った専門家を育てることを目的とする。保健・医療・福祉の諸問題に取り組むことができる専門家を育成することで、社会に貢献することを目指す。</p> <p>【理学療法学専攻設置の目的】</p> <p>理学療法に関する知識・技術の習得と、それに係わる研究活動や理学療法士としての人間的資質を研鑽することにより、リハビリテーションチームの一員として広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p> <p>【作業療法学専攻設置の目的】</p> <p>作業療法に関する知識・技術の習得と、それに係わる研究活動や作業療法士としての人間的資質を研鑽することにより、リハビリテーションチームの一員として広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p> <p>【専攻科リハビリテーション科学専攻設置の目的】</p> <p>リハビリテーション科学における理学療法学・作業療法学の専門教育の上により深く高度な専門的学術を教授し、保健・医療・福祉の現場で主体的に対応できる専門的職業人を養成することを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.yuai.ac.jp/about/intro.html ）	<p>（概要）</p> <p>【理学療法学専攻】</p> <p>医療人として専門知識は無論のこと、豊かなコミュニケーション能力をもとに多職種とのチーム医療構築に協働し、地域へ貢献できることが社会から期待されている。理学療法学専攻では、教育理念に基づき所定の単位を修得し、次の能力を身につけた学生に短期大学士（理学療法学専攻）を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 理学療法士として必要な専門知識と技術を修得している。2. 理学療法の臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有している。3. 常識人としての素養を兼ね備えている。4. 身体に障がいを持つ人に、常に慈しみの心をもって接することができる。5. 理学療法士としての責任感を持ち、身体に障がいを持った人の自立生活を支援するために必要な問題解決能力、臨床的思考力、実践力等の能力を有している。6. 理学療法士として地域社会に貢献できる能力を有している。 <p>【作業療法学専攻】</p> <p>医療人として専門知識は無論のこと、豊かなコミュニケーション能力をもとに多職種とのチーム医療構築に協働し、地域へ貢献できることが社会から期待されている。作業療法学専攻では、教育理念に基づき所定の単位を修得し、次の能力を身につけた学生に短期大学士（作業療法学専攻）を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 作業療法士として必要な専門知識と技術を修得している。2. 作業療法の臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有している。3. 常識人としての素養を兼ね備えている。4. 身体または精神に障がいを持つ人に、常に慈しみの心をもって接することができる。5. 作業療法士としての責任感を持ち、身体または精神に障がいを持った人の自立生活

<p>を支援するために必要な問題解決能力、臨床的思考力、実践力等の能力を有している。</p> <p>6. 作業療法士として地域社会に貢献できる能力を有している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:https://www.yuai.ac.jp/about/intro.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>【理学療法学専攻】</p> <p>理学療法学専攻のディプロマポリシーを達成するため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士及び作業療法士法など関係法規に基づいた養成教育の科目・時間を十分に確保する。 2. 理学療法の臨床に早期適応できる行動力を養うため、実践教育を十分に確保する。 3. 実践力を育成するための専門基礎科目・専門科目を体系的に配置し、PBL(課題解決型学習)、アクティブラーニングを導入する。 4. 幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、生命の尊厳を根底にもった豊かな人間性を涵養するため、教養科目を十分に確保する。 5. 医療・福祉現場にとどまらず、健康増進、予防、スポーツやレクリエーションなどを含めた人間のあらゆる生活場面および地域において、理学療法の専門知識を応用して活動できる広い視野と技術を身に付けるための授業を編成する。 <p>【作業療法学専攻】</p> <p>作業療法学専攻のディプロマポリシーを達成するため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士及び作業療法士法など関係法規に基づいた養成教育の科目・時間を十分に確保する。 2. 作業療法の臨床に早期適応できる行動力を養うため、実践教育を十分に確保する。 3. 実践力を育成するための専門基礎科目・専門科目を体系的に配置し、PBL(課題解決型学習)、アクティブラーニングを導入する。 4. 幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、生命の尊厳を根底にもった豊かな人間性を涵養するため、教養科目を十分に確保する。 5. 医療・福祉現場にとどまらず、健康増進、予防、スポーツやレクリエーションなどを含めた人間のあらゆる生活場面および地域において、作業療法の専門知識を応用して活動できる広い視野と技術を身に付けるための授業を編成する。
<p>入学者の受入れに関する方針(公表方法:https://www.yuai.ac.jp/about/disclosure/disclosure3.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>【理学療法学専攻】</p> <p>愛知医療学院短期大学リハビリテーション学科理学療法学専攻では、建学の精神である「佛心尽障」に則り、社会的知識、基礎的・専門的知識を提供し、障がいをもつ人々の心と身体の支えとなれる人材を育成することを教育目標に掲げ、本学が定める学習成果を得るために努力し、以下に示す崇高な志を有する人を歓迎する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の障がいをもつ人々の心身を広く支えられるよう自身を律し、利他の心を持ち、理学療法学を学ぶ強い意思のある人。 2. 医療人として社会の役に立てることを希望する人。 3. 入学当初の熱い目的意識を持続し、意思を貫き通せる人。 4. 独善的でなく、周囲との協調性を重んじ仲間意識を忘れない人。 <p>解剖や生理学などの基礎的学問から実際の臨床実技などに及ぶ、幅広い知識を3年間で獲得することが求められます。高等学校では経験しない新しい学習科目が多く戸惑うこともあるでしょうが、目的意識をもって真摯に学習に取り組むことが理解力を養うことにつながります。高等学校では履修すべき科目を偏りなく習得しておくことが大切ですが、そ</p>

の他に、座学に限らず集中して物事に対応する習慣を身につけることや、友人など周囲とのコミュニケーション力を養っておくことが望まれます。

◆◇◆ 入学試験の基本方針 ◆◇◆

推薦入学試験、大学生・社会人入学試験、一般入学試験、およびセンター試験利用入学試験では、知識・思考力の評価として国語を必須とし、一部について記述式問題を導入しています。さらに、一般入学試験、センター試験利用入学試験では、個別試験を通して基礎学力を問います。面接試験では、面接官との質疑応答を通して、総合的な思考力・判断力・表現力の評価に加え、医療人になることへの志やコミュニケーション力を判断します。合格判定は、入学試験の結果および高等学校の調査書等の評価し総合的に行います。

【作業療法学専攻】

愛知医療学院短期大学リハビリテーション学科作業療法学専攻では、建学の精神である「佛心尽障」に則り、社会的知識、基礎的・専門的知識を提供し、障がいをもつ人々の心と身体の支えとなれる人材を育成することを教育目標に掲げ、本学が定める学習成果を得るために努力し、以下に示す崇高な志をもつ人を歓迎する。

1. 身体または精神に障がいをもつ人々の心身を広く支えられるよう自身を律し、あたたかい心を持ち、作業療法学を学ぶ強い意思のある人。
2. 医療人として社会の役に立てることを希望する人。
3. 入学当初の熱い目的意識を持続し、意思を貫き通せる人。
4. 独善的でなく、周囲との協調性を重んじ仲間意識を忘れない人。

解剖や生理学などの基礎的学問から実際の臨床実技などに及ぶ、幅広い知識を3年間で獲得することが求められます。高等学校では経験しない新しい学習科目が多く戸惑うこともあるでしょうが、目的意識をもって真摯に学習に取り組むことが理解力を養うことにつながります。高等学校では履修すべき科目を偏りなく習得しておくことが大切ですが、その他に、座学に限らず集中して物事に対応する習慣を身につけることや、友人など周囲とのコミュニケーション力を養っておくことが望まれます。

◆◇◆ 入学試験の基本方針 ◆◇◆

推薦入学試験、大学生・社会人入学試験、一般入学試験、およびセンター試験利用入学試験では、知識・思考力の評価として国語を必須とし、一部について記述式問題を導入しています。さらに、一般入学試験、センター試験利用入学試験では、個別試験を通して基礎学力を問います。面接試験では、面接官との質疑応答を通して、総合的な思考力・判断力・表現力の評価に加え、医療人になることへの志やコミュニケーション力を判断します。合格判定は、入学試験の結果および高等学校の調査書等の評価し総合的に行います。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.yuai.ac.jp/about/disclosure/education01.html#organization>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2 人	－					2 人
リハビリテーション 学科	－	4 人	4 人	4 人	5 人	0 人	17 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		50 人					51 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法： https://www.yuai.ac.jp/staff/rigaku/ https://www.yuai.ac.jp/staff/sagvou/						
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
リハビリテーション学科	80 人	86 人	107%	240 人	265 人	110%	0 人	0 人
合計	80 人	86 人	107%	240 人	265 人	110%	0 人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
リハビリテーション学科	66 人 (100%)	0 人 (0.0%)	60 人 (90.9%)	6 人 (9.1%)
合計	66 人 (100%)	0 人 (0.0%)	60 人 (90.9%)	6 人 (9.1%)
(主な進学先・就職先)（任意記載事項）				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>学内で統一した基準に従って各科目担当教員が作成した授業計画（シラバス）に基づいて授業を行っている。全ての授業科目について配当年次と開講期を定めているため、年間に受講できる単位の上限は定まる。配当年次や開講期は内容の順次制や科目間の連携を考慮して配置・編成している。授業計画（シラバス）は、第三者（学長、法人本部長、学科長、専攻長）が内容を確認し、必要に応じて修正を行った上で作成している。また、外部の意見も聴取している。</p> <p>学生は、授業計画（シラバス）を閲覧できる。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>学修成果を厳格かつ適正に評価するため各科目の成績評価基準及び学習到達目標に基づいて、多面的に評価している。筆記試験のみだけでなく、授業過程での小テストや準備学習の実施状況（ポートフォリオ）、レポート、参加貢献度などの学修プロセスを基準として設け、複数の評価基準を用いている。</p> <p>『GPA制度規程』に基づき、GPAを進級要件や卒業要件として用いている。進級要件として、2年次末において、1、2年次に開講された科目のうち卒業要件として定められている科目の必要単位を修得していても、その時点でのGPAが1.50未満の者に対しては進級試験を課し、合格した者について、3年次への進級を認めている。さらに、卒業要件として、3年次末において卒業要件である理学療法学専攻106単位以上、作業療法学専攻105単位以上を修得することのほかGPAが2.00未満の者に対しては卒業試験を課し、合格した者に卒業を認定することを定めている。卒業認定に際しては、上記内容に基づき判定した卒業予定者の成績を教授会で確認し、承認している。</p> <p>また、学修成果の評価はGPAに加えて、各種アンケートにおいて学生が自己評価するしくみを設けている。授業評価アンケートでは、学修意欲の把握や授業内容の理解度等を調査し、その結果を各科目担当教員が踏まえた上で評価基準の見直しや授業内容の改善に役立てている。また、学習行動調査によりアセスメントしている。</p>
--

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻)	106 単位	有・無	単位
	リハビリテーション学科 (作業療法学専攻)	105 単位	有・無	単位
	専攻科リハビリテーション 科学専攻	31 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.yuai.ac.jp/about/disclosure/disclosure2.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	リハビリテーション学科	800,000 円	250,000 円	700,000 円	施設設備費、実習費、後援会費
	専攻科リハビリテーション科学	1 単位につき 25,000 円	250,000 円	100,000 円	施設設備費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>（概要）</p> <p>入学前から卒業に至るまで組織的に支援している。</p> <p>学生一人ひとりに学習アドバイザーを配置し、基礎学力の向上に向けた学習支援を個別に行うなど必要な支援に取り組んでいる。担当する学生を集めてアドバイザーミーティング（1回/週）の開催や、個別面談などを定期的に行っている。さらに、補習授業など学習フォロー体制を整備し、1年次より対応している。各専攻で毎週1回専攻会議を実施し、学生の学習態度などの情報を共有し、きめ細かく指導するしくみができている。</p> <p>また、学生支援室職員や臨床心理士による学生相談を受け付けている。年1回、保護者懇談会を行い、保護者との連携にも努めている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>（概要）</p> <p>卒業後は国家資格（理学療法士・作業療法士）を取得し、医療、福祉機関で就労することを前提に卒業後の就職を踏まえた支援に取り組んでいる。正規の教育課程はもとより日常的な活動全てがキャリア教育につながるものと捉え、教職員全員が学生に関わっている。例えば、学内での挨拶や基本的な礼儀、マナー等、医療人としてふさわしい人材を育成するため、学習アドバイザーをはじめ、全教職員が指導することを心掛けている。</p> <p>卒業後の進路について、学習アドバイザーが学生一人ひとりの希望や適性を考慮した上で就職先、進学先を選択できるよう支援している。また、キャリア支援課と協働して、履歴書添削、面接練習等を行っている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>（概要）</p> <p>学生生活を送る上で配慮が必要な事項の有無を入学者全員に書面で確認の上、学生本人に了解を得た上で教職員が情報を共有し、必要な支援を行っている。心身の不調を抱えた学生は本学附属のゆうあいリハビリクリニックを受診することができ、さらに、臨床心理士によるカウンセリングを受けることができる体制を整備している。</p> <p>また、医療、福祉機関で実習を行うため、感染症予防対策として入学者全員に抗体価検査（麻疹、風疹、水痘、ムンプス、B型肝炎）を実施し、予防接種を推奨し、感染症予防に努めている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：https://www.yuai.ac.jp/about/disclosure/achievement.html https://www.yuai.ac.jp/staff/rigaku/ https://www.yuai.ac.jp/staff/sagvou/</p>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F223310107129
学校名	愛知医療学院短期大学
設置者名	学校法人佑愛学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		0人	0人	19人
内 訳	第Ⅰ区分	－	－	
	第Ⅱ区分	－	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				19人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
G P A等が下位4分の1	—		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。